

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
保幼小中連携 中学校ブロック	実践的 教育的 活動を 校区内 で統	① 合同授業研等で、連携カリキュラムを有効に活用する。 ② つながり力の有効に向けて、それぞれ(各校園所、各学年)が授業で何を大事にすべきかを明確に持つ。	① 連携カリキュラムの見直し、修正について検討する。 ②各校、子どもが主体的・対話的に学ぶ授業に取組み、それぞれの実践を各校が交流をする。	① 連携カリキュラムに必要な項目について検討し追加作成を行う。 ② 校区全体で子どもが主体的・対話的に学んでいる授業を実践する。
確かな学力の育成	確かな 学力を つける 取組み を進め る	・授業スタイルの継承 授業規律、ノート指導、ペア学習、班学習、発言ルール ・基礎学力の定着を図る。 音読指導・家庭学習の充実 習熟度別指導の充実 ・外国語科・道徳科の教科化に向けての研修 ・基本的な生活習慣づくり 生活アップ週間、あいさつ運動	・学力テストの分析と検討から重点目標の決定。 ・授業改善に努める。 (つながり力の育成をめざす) ・外国語科・道徳科の指導法の研修と研究 ・習熟度別指導の充実 ・読書活動の充実 (ボランティアの活用等) ・基本的な生活習慣づくり (PTA活動との連携)	・各取組みの検証と改善 主体的・対話的な学びの実践と研修を進める。 ・外国語科・道徳科の指導法の研究 ・個に応じたきめ細かな指導の工夫 ・習熟度別指導の充実 ・読書活動の充実 ・基本的な生活習慣づくり (PTA活動と連携し保護者への積極的な働きかけを行う)
豊かな 人間性 を育む	自他の 人権を 大切に でき、 繋がり を大切 にでき る学校 集団を 作る。	・いじめ防止基本方針の作成といじめアンケートの実施 ・あいさつ運動の実施 ・児童会活動の充実 ・異学年交流の実施(縦割り遠足、縦割り掃除、安威わくどきパーク、なかよし学級の交流) ・支援学級との交流会の実施 ・地域の方との交流事業 ・自尊感情についてのアンケートの実施と検証 ・職員間での児童実態交流、集団作りの取組みの交流会の実施	・いじめ防止基本方針の見直しといじめアンケートの実施 ・あいさつ運動の実施 ・児童会活動の充実 ・異学年交流の実施(縦割り遠足、縦割り掃除、安威わくどきパーク、なかよし学級の交流) ・支援学級との交流会の実施 ・地域の方との交流事業 ・自尊感情についてのアンケートの実施と検証 ・職員間での児童実態交流、集団作りの取組みの交流会の実施	・いじめ防止基本方針の見直しといじめアンケートの実施 ・あいさつ運動の実施 ・児童会活動の充実 ・異学年交流の実施(縦割り遠足、縦割り掃除、安威わくどきパーク、なかよし学級の交流) ・支援学級との交流会の実施 ・地域の方との交流事業 ・自尊感情についてのアンケートの実施と検証 ・職員間での児童実態交流、集団作りの取組みの交流会の実施
健康・ 体力の 増進	全児童 の運動 の機会 を増や す	・茨木っ子運動2を体育で実施 ・泳力目標の決定と水泳指導力向上のために実技研修 ・なかよし学級の取組み (外での集団遊び・なわとび) ・冬季スポーツ大会の取組みの成果と課題の検証 ・カリキュラムを検討し、効果的な運営を検討する。	・茨木っ子運動2を体育で実施 ・体力テストの検証を行い、体育の授業でのチャレンジ項目を設定し取り組む。 ・外遊びの奨励に努める。 ・冬季スポーツ大会の取組み ・先進校の取組を視察する。 ・カリキュラムの効果的な運営の見直しと実践	・茨木っ子運動2を体育で実施 ・教職員の授業力向上のための実技研修を行う。 ・外遊びの奨励に努める。 ・冬季スポーツ大会の取組み ・体力テストの結果の検証を行い、授業に活かす。 ・各学年が連携し、カリキュラムの実践に努める。
支援教育の充実				

2 今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

<p>国語A (領域ごと)</p> <p>① 話すこと・聞くこと 概ね良好な結果であった</p> <p>② 書くこと やや課題が残る結果であった</p> <p>③ 読むこと 概ね良好な結果であった</p> <p>④ 言語事項 やや課題が残る結果であった</p> <p>(問題形式)</p> <p>① 選択式 やや課題が残る結果であった</p> <p>② 短答式 概ね良好な結果であった</p> <p>③ 記述式 なし</p> <p>(無解答率) 概ね良好な結果であった</p> <p>(その他)</p> <p>日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う選択式の問題の正答率が高かった。</p>	<p>国語B (領域ごと)</p> <p>① 話すこと・聞くこと 概ね良好な結果であった</p> <p>② 書くこと 概ね良好な結果であった</p> <p>③ 読むこと やや課題が残る結果であった</p> <p>(問題形式)</p> <p>① 選択式 概ね良好な結果であった</p> <p>② 短答式 なし</p> <p>③ 記述式 やや課題が残る結果であった</p> <p>(無解答率) 概ね良好な結果であった</p> <p>(その他)</p> <p>目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える選択式の問題の正答率が高かった。</p>
---	---

分析

・国語 A については、相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す選択式の問題で正答率が高かった。また、登場人物の心情について、情景描写を基に捉える問題も高かった。しかし、漢字の読み書きの正答率はやや低く、無解答率も高かった。

・国語 B については、目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えるという選択式の問題の正答率が高く、話し合いの参加者として、質問の意図を捉える問題もやや高かった。しかし、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる記述式の問題、目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む選択式の問題の正答率が低く、課題の残る結果となった。

話し合いの場面など身近に感じるものは、イメージしやすく正答率が高いが、漢字などの基礎・基本問題や文章を書く・読み取る問題の正答率が低い。読書量を増やし文章に慣れ親しむことが必要である。文章を最後まで読むことや学習に取り組む姿勢など、低学年のうちからの積み重ねが大切である。

〇●算数●〇

算数A

(領域ごと)

- ① 数と計算
やや課題が残る結果であった
- ② 量と測定
概ね良好な結果であった
- ③ 図形
良好な結果であった
- ④ 数量関係
概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
概ね良好な結果であった
- ② 短答式
概ね良好な結果であった
- ③ 記述式
なし

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

図形問題の正答率が高かった。
もっとも正答率の低かった問題は、数量関係の8で、全体の人数から一定の人数の割合(百分率)を求める問題。これは、無解答率も最も高かった。

算数B

(領域ごと)

- ① 数と計算
やや課題が残る結果であった
- ② 量と測定
やや課題が残る結果であった
- ③ 図形
概ね良好な結果であった
- ④ 数量関係
やや課題が残る結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
概ね良好な結果であった
- ② 短答式
概ね良好な結果であった
- ③ 記述式
概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

数と計算、量と測定、数量関係の領域で、やや課題が残る結果となった。
もっとも正答率の高かった問題は、数と計算1(1)。
もっとも正答率の低かった問題は、数量3(2)だが、全国の正答率も低いので、差はほぼない。全国との差が大きく開いているのは、数量2(2)の記述問題である。無解答率が一番多かった問題は、記述問題で、数量関係3(1)である。

分析

・算数Aにおいて、図形は良好な結果であったが、数と計算にやや課題が残る結果となった。
特に、除法で表すことのできる二つの数量の関係の問題、1あたり量の大きさを求める数量の関係を数直線で表す問題などは、全国平均との差が開いている。示された割合を基に、基準量と比較量の関係を捉えることができるようにする指導が必要である。

・算数Bは、算数Aよりも課題が残る結果となった。特に、メモの情報とグラフを関連付け記述する問題、グラフを適切に読み取る問題などの正答率が低い。普段の学習から、文章やグラフを読み取り、気づいたことを書かせるなどの取り組みが必要である。

算数A、Bに共通して言えるのは、基礎的・基本的な数や計算の問題の正答率が低いことである。低学年からの積み重ねを大切に、定着を図るために、繰り返し学習していくことが必要である。

○●理科●○

(領域ごと)	
①物質	概ね良好な結果であった
②エネルギー	大変良好な結果であった
③生命	概ね良好な結果であった
④地球	概ね良好な結果であった

(問題形式)	
①選択式	良好な結果であった
②短答式	課題が残る結果であった
③記述式	概ね良好な結果であった

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- ・「野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ」、「回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶ」、「海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ」の設問の正答率がとても高かった。
- ・記述式の設問での正答率が低かった。
- ・「実験結果から言えることだけ」を考える設問の無解答率が高かった。

分析

概ね良好な結果であった。

中でも「エネルギー」領域は、全国平均を大きく上回っている。「回路を流れる電流の向きと大きさ」等、その全てが電気エネルギーに関するものであったが、電気エネルギーは生活の中で使われる機会が非常に多い。また、電流の向きの変化をモーターの回転方向の変化で確認する実験、等も児童は経験している。そのため、児童にはとても身近なものとして認識され、その性質等を理解しやすく、このような結果につながったのではないかと考えている。

一方で、「関節」のような言葉そのもの、知識を問われる問題では正答率が低かった。また、数値を含む資料を活用する問題でも正答率が低い結果となった。

体感的に理解しやすい、あるいは身近に感じるものだけに興味を持つのではなく、知識や論理的な思考、客観的な視点を用いて身の回りの事物や現象を科学的に見つめる楽しさを児童に感じさせ、理科に対する学習意欲をさらに喚起し、より深い学びへつないでいくことが求められている。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

・今年度は、国語、算数とも基礎となる問題での正答率が低かった。また、選択式の問題に対しては正答率がやや高いものの、国語 B（主に活用の問題）の記述式については、課題の残る結果となった。
無解答率はやや少なく、取組みの成果が見られる。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

・学力高位層については、今年度は低かった（算数 A のみ高かった）。昨年度は、低学力層の比率が低くなり学力の二極化が解消されつつあったが、今年度は低学力層の割合が高く、学力の二極化が見られる。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

*授業スタイルの継承・・・どの授業においても実施していく。

めあての提示 → 一人で考える → ペア・班学習 → 全体交流 → 振り返り

*基礎学力の定着を図るために、教師間の共通認識を図り、取組みを進める。

- ・チャイム着席の徹底
- ・学習用具の決まり
- ・発言ルール・声のものさしの意識づけ
- ・家庭学習の充実（音読・漢字・計算）
- ・ノート指導の統一
- ・児童使用の教材の統一
- ・授業において、計算問題・用語など既習事項の反復練習

*教師の技術力の向上をめざして、研修の充実を図る。

- ・各教科、各学年で身につけさせる基礎的な指導の統一やスキルの向上
- ・外国語科、道徳科の教科化に向けての研修
- ・モジュール学習の充実

*図書館支援員と連携し、学級文庫の充実や読書月間の取組みを進める。

- ・図書ボランティアの活用
- ・委員会活動（ブックウォーク等）

*PTA 活動と連携し、基本的な生活習慣づくりを進める。

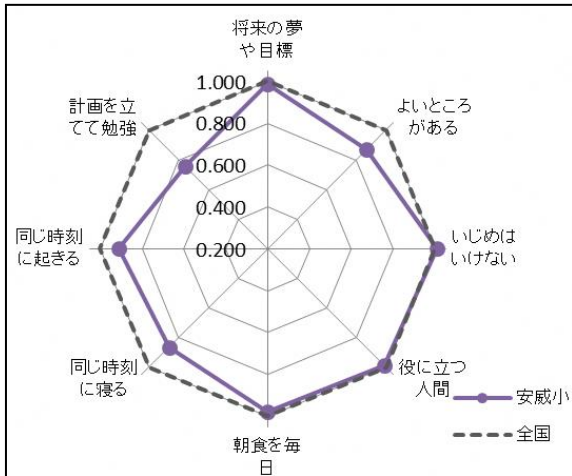
- ・生活アップ週間
- ・学校目標の周知
- ・授業部会発行の「まなび安威」での啓発

*低学力層の指導

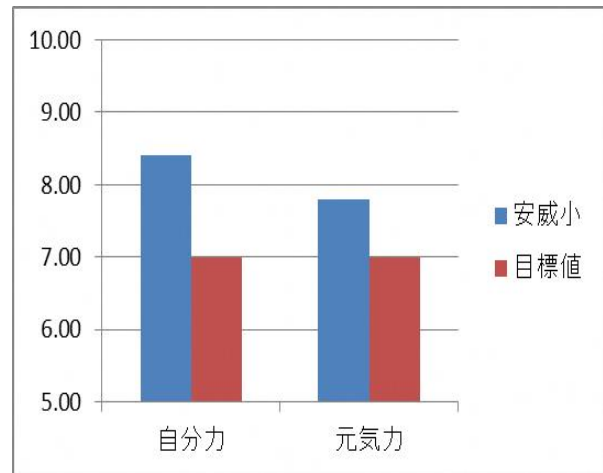
- ・学習サポーターと交流会を持ち、課題のある児童の実態把握に努め対応を検討する。
- ・学習サポーターや関われる職員で、3年～6年の習熟度別指導の充実を図る。

●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は8項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『自分力』と『元気力』のみとなっています。

<分析>

『自分力』『ゆめ力』

○「夢を持っている」に肯定的な回答をした児童が多く、「人の役に立つ人間になりたい」と考えている児童も多いことから、将来・社会に向けて自分の目標を持つことができていると考えられる。また、「いじめはいけない」と考えることができている。「自分には良いところがある」と答えている児童は全国と比較すると低い値を示していた。自信を持って自分の良さを表現できない面がある。

『元気力』

○朝食はほぼ毎日食えることができているが、起床時刻を一定に保つこと、寝る時刻を決めることができていない児童が多い。

『学び力』

○「自分で計画を立てて勉強する力」が弱い。具体的にどう取り組んでいいのか分かっていないところがある。

『つながり力』

○地域の行事に積極的に参加している児童は、8割を超えており突出している。また、地域社会でのボランティア経験も7割近くあり、地域の方々のご協力で人々とのつながりを大切にできている。

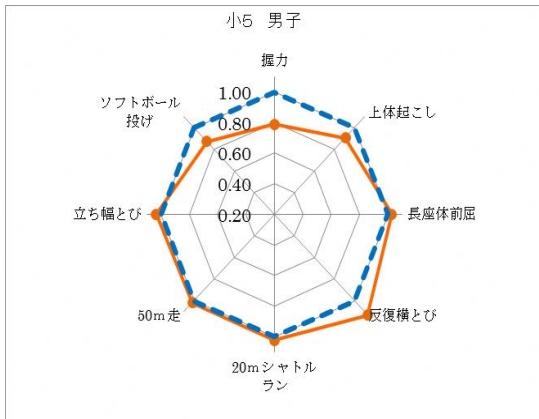
<取り組み>

- ・生活アップ週間など継続した取り組みで、就寝時刻を一定に保てるように見直す機会を設け、場合によっては情報モラル教育等も活用し就寝準備について考えさせたい。
- ・計画を立てて自ら学習する力を身につけるため、自主学習ノートなどを活用し、学年に応じて系統立てて取り組む。そして、学校・学年全体で共有できる形をとっていきたい。
- ・人権教育(児童の自尊感情を高める取り組み、キャリア教育で目標を立てることの大切さを学ぶ)、道徳科の充実
- ・いじめ防止のための取り組み(いじめアンケート、いじめ防止の朝会・学級会、児童会のいじめ防止の劇)
- ・異学年交流、支援学級との交流、地域の方との交流、保幼小中交流
- ・授業のユニバーサルデザイン化(授業規律、ペア学習、班学習、発言のルール)で安心して学習に取り組める授業環境づくり
- ・基礎学力の定着、家庭学習の充実
- ・「学び安威」で学習面や生活面に関して保護者と情報を共有
- ・読書週間や読書ノートを活用し、読書の機会の創出

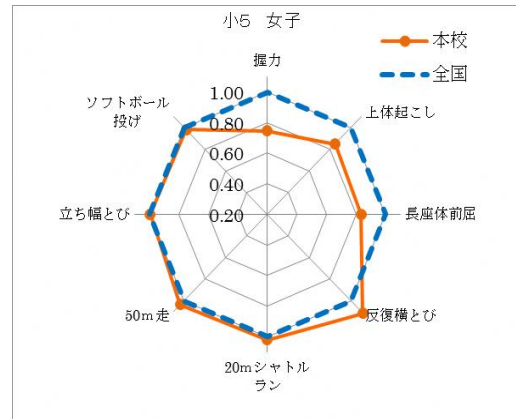
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

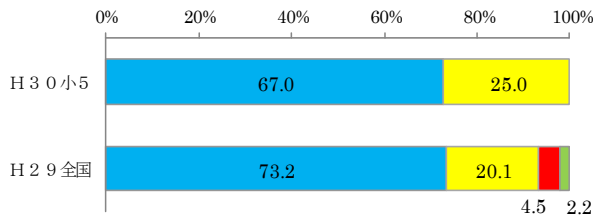
男子 (小5)



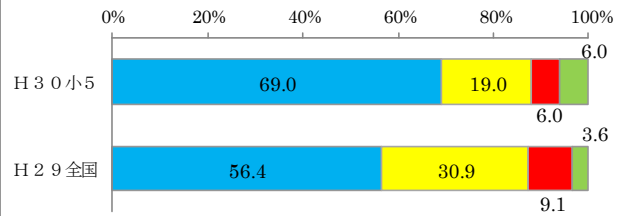
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

分析

全国平均と比較して、男女とも反復横跳びの結果が良かった。3年ほど前、課題だった反復横とびは、昨年度も今年度も改善が見られた。日々の体育の準備運動などとして、取り組んできた成果が見られた。ただ男女ともに握力には課題があり、体を支持する力にも直結すると考えられる。

握力、ソフトボール投げの記録においては、昨年度に続き課題の残る結果となった。児童の実態として休み時間の遊び方に注目してみるとドッチボールなどのボールを投げる遊びよりも、ボールを蹴るサッカーをしている児童が多い。また、鉄棒やのぼり棒、雲梯へは、学年が上がるにつれ触れる機会が減ってきている。これらの実態や分析結果をふまえ、カリキュラムの見直しを行い実践に努めたい。

取組み

- ・各学年、体育の授業の準備運動として「茨木っ子運動2」を活用する。
- ・水泳指導は、各学年の泳力目標を設定し、授業や夏季休業中の水泳指導において全職員で泳力の底上げを図る。
- ・文部科学省作成の指導資料集「小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック」の活用。
- ・積極的に研修に参加し、校内において伝達講習を行い、職員の技能を高める。
- ・体育教材の整備に努め、児童がめあてをもって活動できるように指導の工夫を行う。
(ホワイトボード、運動場用黒板の活用等)
- ・全学年のカリキュラムの見直しを行い、準備・後片付け等の時間を削減し、児童の運動量の確保に努める。
- ・児童会・委員会活動と連携し、全校児童が運動に親しむ取組みを行う。(外遊び・縄跳等)
- ・授業開始時のサーキットトレーニングなどを取り入れた体力向上を検討する。